資料１－３

京都府子どもの貧困対策検討会（部会）当事者意見交換

◇　当事者：社会的養護経験者２名　ひとり親家庭の子３名
（うち高校生２名　大学生２名　社会人１名）

◇　主な意見

【居場所関係】

○　居場所は楽しくいろんな人と話せるので、自分が小さいときからあったらよかった。
○　こどもの居場所では年齢に応じて楽しく勉強ができ、居心地がよかった。
○　居場所には相談できる大人の存在があり、大きな助けになった。
○　子どもたちがいろいろな人と触れ合いながら学び、その経験を将来に活かせるよう、地域と密着して交流できる居場所の役割は大きい。

【金銭関係】

○　18歳から児童扶養手当や医療費の免除等のいろいろな支援がなくなり、金銭的に厳しい。
○　就職後、お金の使い方や管理の方法がわからなくて戸惑った。
○　生活が苦しくアルバイトと勉強の両立が大変

【心の不安】

○　小学校のとき、親が仕事に出て一人で過ごしているとき寂しかった。
定期的に会って積極的に話を聞いてくれる大人がほしかった。
子どもが自分から寂しさを発信することは難しい。
○　就職活動中、何度か倒れてしまい、医療費が負担になった。
救急車を呼んだときに「ご両親は？」と聞かれ、頼る人がいない現実が辛かった。

【相談先について】

○　困ったときの相談先がわからず、一人で抱え込んでいた。
○　家庭での悩みをスクールカウンセラーや研修生（学生）に相談した。
私立高校にはスクールカウンセラーはいなかったので学校には相談できなかった。
○　高校卒業後は相談先がなく、特にお金のことは親密な人でないと相談しづらい。

【支援策の周知関係】

○　無利子奨学金があることを早く知りたかった。
○　高校進学等進路を決める前の中学２年頃に生徒全員に支援制度の一覧を配布するようにしてほしい。進学後や就職後に知っても利用できない。
○　生活保護等の支援制度があることを知らず、中卒で働かないといけないと思っていた。学校等においてアドバイスがもらえればよかった。